

第3回松本市新庁舎建設市民懇話会会議録

- 1 開催日時
平成30年2月24日（土） 午前10時15分～12時20分
- 2 開催場所
Mウイング3階 会議室3-2
- 3 出席委員
河西 史郎委員、倉澤 聡委員、坂井田 金一委員、佐藤 人実委員、
高倉 万記子委員、田下 光委員、田邊 愛子委員、土屋 澄彦委員、
西村 昭太委員、萩原 梢委員、前田 紳一委員、松尾 朗子委員、
松山 紘子委員、宮澤 信委員、武者 忠彦委員、村山 忠勇委員、
渡邊 幸夫委員
- 4 欠席委員
下笹 玲奈委員、寺内 美紀子委員、福嶋 良晶委員
- 5 事務局出席者
山内政策部長、横内政策課長、宮尾課長補佐、伏見主任、大日向主事
- 6 結果概要
 - (1) 開会
 - (2) 議事
 - ア 第2回市民懇話会の会議内容の確認
 - イ 市民等の意見聴取の状況について、新庁舎のコンセプトに繋がるキーワードについて
 - (会 長) まず、事務局から説明をお願いします。
 - (事務局) 市民等の意見聴取の状況、新庁舎のコンセプトに繋がるキーワードについて説明
 - (会 長) 資料2の62～64ページにある概念やキーワードが、来年度

策定する新庁舎基本構想骨子の基本になる。キーワードの妥当性、

優先順位等について考えたい。まず、キーワード①「行政サービ

スの場として」について意見を伺いたい。

- (委員) 「弱者、少数派への配慮」という表現ではなく、「弱者、少数派のニーズを解決する」という表現の方が一般的である。
- (委員) ワンストップというキーワードは大切。新庁舎は高さ制限もあり、狭く小さくなると思うが、行政機関は大勢の人が集まるので、多目的会議室等も必要になる。障害福祉分野では、地域生活支援拠点を整備しなければならないが、狭くなる市役所を使うのではなく、松本地域にある支所や空き病院等が、市の福祉や保健の一部を担う場所になってもよい。強度行動障害と呼ばれる人には社会資源自体がないので、そのような機能を持たせることで、インベーションやフレキシブル、これからの市役所像にも繋がる。もし「弱者」「少数派」という表現を使うなら、「社会的弱者」「マイノリティ」に変えてほしい。「配慮」は「合理的配慮」の方が良い。障害者差別解消法で、行政機関の「合理的配慮」は義務に定められている。
- (委員) ユニバーサルデザインとしては、「能力の差」と表現するので、その方が望ましい。
- (会長) キーワード②「松本らしく」についてはいかがか。
- (委員) 建設場所は道路を挟んだ飛び地なので、分棟も検討してほしい。災害時に被害の大きいものから建替えができ、敷地を増やすことも減らすこともできる。庁舎の規模もコンパクトになり、各支所にデザインを反映して統一感を出すこともできる。建設場所は三の丸内でもあるので、元々屋敷は低層で分棟だったことを考えると、松本城との調和も図れる。
- (委員) 「松本城」というキーワードはしっかり考えなければならない。お城との景観の一体化を考えると、車道をなくすことも考えるべき。建物は一度建てると50年、100年残ってしまう。松本城の世界遺産登録を目指す動きや、南・西外堀復元等の考え方と合わせる必要がある。松本城と調和する景観のコンセプトは、より具体的にイメージを出していった方が良い。
- (委員) 「調和」というキーワードに注意しなければならない。天守や江戸時代との調和と捉え、武家屋敷風や蔵造りにすれば松本らしい、となるのは非常に危険。形態を真似ることが調和なのではなく、これからの未来にどのような市役所、松本を創るかという

ところに調和を見出さなければならない。キーワードには、「未来志向」の調和ということを入れたらいいのではないか。

(会 長) 非常に重要な指摘である。

(委 員) ワークショップでは、建設場所に道路があるなら、通路を歩くことで発見があってもいいという意見もあった。通路が中間的な空間にもなりうる。

(委 員) 私は単純に、アルプス、松本城、風情、歴史ということから「松本らしく」を出せば良いと考える。先代が残したものを大切に保存するというのもまちの役目。松本城との調和を考えると、新庁舎は低く、平面積を確保する必要がある。周辺道路を一部廃止してもよいと思う。庁舎西側を松本城公園の延長にするのもよい。行政も減らすことを考え、各出張所、町会に任せられることは任せ、松本市公共施設等総合管理計画の施設 20%削減という目標にも沿っていかねばならない。

(委 員) 建設場所は、松本城に「隣接」ではなく、松本城の敷地だった場所である。「松本城」という言葉の使い方に注意してほしい。

(会 長) キーワード③「これからの市役所像」についてはいかがか。

(委 員) ワークショップで出された意見を、一通り資料で読んだ。「事務作業に時間を割くのではなく、市民と直接対話する時間が必要」という市職員からの意見は、非常にありがたい前向きな姿勢で、

評価したい。ぜひコミュニケーションの場を作ってほしい。

(委員) 資料を一通り読んで、職員用の会議室や更衣室が足りていない印象を受けたが、新庁舎はコンパクトにしなければならず、新たに交流スペースなどを作りたいという意見もある。今不要なスペースがあるならそれを省いて、新たに考えていければいい。

(会長) ニーズが重なるとスペースは足りなくなる。新たな時代のオフィス像、今までとは全く違うオフィスのあり方を提案できれば、空間の使い方もかなり変わるのではないか。

(委員) 建設段階で仮庁舎が必要になるが、そこへそのまま移転したり、各支所へ移ったりすれば、本庁舎はコンパクトにできる。仮庁舎についても視野に入れて話し合ってほしい。

(会長) 同じ敷地での建替えなので、仮庁舎の問題も重要。機能分散に関わる意見はワークショップでも多かった。

(委員) 「本庁舎は専門性、現地機関に権限を与える」ことに賛成。開庁時間にここまで来るのは大変なので、なるべく身近な支所で手続きができるとうれしい。

(委員) 機能分散については別の視点も必要だと考える。市として、行政機能だけではなく、まちの機能をどう考えるのか。市街地のコンパクトシティに加えて、支所・地域の発展、都市の機能も念頭に入れて機能分散を議論すべき。

(会長) 役所の機能分散は、まちのあり方にも密接に繋がる。『「コンパクト+ネットワーク」の構想に、市役所自身も貢献を』という表現は、より踏み込んでもよい。市役所の機能分散と都市機能の分散は連動しており、市全体のまちづくりの方向性とも合う話だ。

(委員) 機能分散という方向性は大事だが、機能を各地区に分散すると、人材の分散化につながり、課題を設定するにも解決するにも、力

が分散してしまうという構図もある。今は能力集中が求められている。手続き業務はICTやAI等も活用して分散させていく方がよいが、人間の頭で考えなければいけない業務については、能力を持った人が集まることの大事さをきちんと押さえてほしい。

(会 長) 「本庁職員の現地機関への配置転換」は安易に書きすぎか。
(委 員) 現地機関に常駐していなくてもよいと思う。課題に対応できる職員のチームが、必要な時に地域に出る体制が整っていることの方が、お互いにとってはお互いによい。

(委 員) 機能分散は大事だが、その前に機能の分析が大事。仕事の内容、方法は時代によって変わってきた。将来本当に必要な機能を、必要な場所に置いていくべき。私は市役所の機能と観光の機能を分けた方がよいと考えている。

(会 長) 「仕事の仕方を見直す」という言葉は、単に仕事の見直しではなく、先を見越して未来志向で見直すとした方がよいか。

(委 員) 松本市役所には先を見て最先端を行ってほしい。

(会 長) キーワード④「リスクに備える」についてはいかがか。

(委 員) 市の中心部は非常に地盤が弱く、免震構造が必須だと思うので、キーワードに入れてはどうか。災害時は、市役所は司令塔になるので、非常用エネルギーの確保はキーワードに入れるべき。

(委 員) ③「これからの市役所像」とも重なるが、東日本大震災等で庁

舎が被災した際に書類を取り出せない事態が発生し、クラウドでデータを外部に出すようになった。各職員がエクセルで管理しているファイル等も、いざという時に取り出せる場所に置くことも大事。紙だと盗んだ人は分からないが、データだとアクセスした人は分かるので、そのような意味でもデータ化推進は大切。専門的な言い方では、リスク分散という表現の他に、リスク「低減」という言葉を使う。

(委員) 「情報の保護」と「分散」が災害に対しては非常に重要。

(委員) 「職員の退庁時に机上に何も残さない」というイメージは分かるが、削除してもよい。

(会長) 次のキーワード⑤「将来のために」についてはいかがか。

(委員) どのくらい省エネ・創エネできるかは、最初に建物を建てた時に決まってしまう。ライフサイクルコストの中に「エネルギー費用」を入れてほしい。

(会長) ②「松本らしく」のエネルギー関連の言葉を⑤「将来のために」に移すなどの調整が必要。

(委員) 「100年、200年使える」のもいいが、グレードを高くしすぎない建物でもいい。建替えられる余裕を持った財政計画を重

視してほしい。エコロジーの反対にあるエコノミーも考えておきたい。

(会 長) この懇話会としては、いずれにしても「サステナブル」は大事なメッセージだということを出していきたい。

(委 員) 建替える理由の一つに老朽化があるので、基本的にはしっかりと長く使えるもの、災害に強いもの、環境に配慮したものをというのが私の意見。

(委 員) せっかく建てるものには愛着を持たれてほしい。愛着を持ち続ける、残したいと思えるという意味でのサステナブルも大事ではないか。

(会 長) 文化的なサステナブルということ。「サステナブル」のキーワードに説明を加えて2～3項目にした方がよい。

(委 員) 林業活性化のためにもできれば庁舎は木造建築がいいと思うが、それは技術的に不可能なのか。

(委 員) ある企業は数年後に350メートルの木造ビルを建てるという。名古屋城は鉄筋コンクリート造だが、木造に建替えるという話も出ている。実際に法隆寺は千年、松本城は400年と、耐久性で言えば問題はないと思う。少なくとも内装材には活用できる。

(委員) 私が「100年、200年使える」と言ったのは、木造をにら
んでの意味合いがある。技術的に直交集成材で高層建築が可能に
なっており、木造は検討の重要なポイントになる。木造は100
年くらい建つと文化財的な価値が出てくる。あがたの森文化会館
は使いながら維持しているが、市民の保存運動によって残され、
国の重要文化財に指定され、文化財的な進化をしている。「将来
文化財にもなりうる建物」という意味合いのコンセプトも必要と
考える。

(会長) 当然、木造は選択肢の一つにはなるが、木造か否かの判断はも
う少し先で良い。「サステナブル」の説明に、「愛着の持てる」や
「文化的な価値」等を加筆すれば、ゆくゆくは木造も検討できる。
さて、今回はキーワード⑥として議会施設について、松本市議会
から要請事項が出ている。

(委員) 市議会のことも、懇話会できちんと議論させてもらいたい。

(委員) 議会からの要請事項は前向きに捉えている。具体的な要望をも
う少し提案してほしい。今は議員の姿が見えないので、必要なも
のはある程度与えて頑張ってもらいたいし、今後を期待している。

(委員) 議会のチェック機能は、市民の力によって育てられる。昔は、

道路に穴が空くと地域の議員に声を掛けたと聞くと、最近では理事者側が直接対応する。議員とのコミュニケーションの機会がなく、選挙の時だけ議員の顔を見るという構図自体を考える必要がある。議員自身がチェック機能を高めるために、市民とどのようにコミュニケーションを図るのかを考えていく取組みがあるとうれしい。

(会 長) ③「これからの市役所像」のコミュニケーションの話にも関わってくる。最後に、全体を通して意見があればお願いしたい。

(委 員) 財源も限られているので、これらの意見を全て網羅できるか。メインコンセプトが掲げられている中で、職員が働きやすい環境にできるのが一番良いと思う。①～⑥のキーワードのどこに重きを置くかが明確になるといい。個人的には③「これからの市役所像」と⑤「将来のために」に力を入れてほしい。

(委 員) キーワードにはやはり「未来志向」を追加したい。この先の人口減少を考えると、基金の有効活用ないしは民間資金の活用等で資金調達を図らなければならない。「民間資金の有効活用」を確実に行ってほしい。

(委 員) よくまとまっていると思う。市民ワークショップに参加して、

庁舎建替えとなるとあれもこれもと要望はたくさん出されるが、実現すれば本当に来てくれるのか疑問に思った。それらを実現すると福祉が削られ、福祉の中での奪い合いが起きるのではないか。

「コンパクト」というキーワードの中で「ムダがなく」とあるが、誰が「ムダ」を判断し、どういう考え方で「ムダ」を省くのか、どこまで大多数に媚び、マイノリティを考えるのか、公平な判断をしなければならない。

(会 長) ニーズがあるのか、ムダとは何かは、検討すべき本質的な問題。

エビデンスベースで考えていくということが書かれてもよい。

(委 員) この事業でチャレンジする重点項目を立てても面白い。

(会 長) 最後に、今後の予定について事務局から説明をお願いしたい。

(事務局) 今後の予定について説明

(会 長) 何か質問はあるか。

(委 員) 基本構想骨子案では、言葉の意味に幅のあるまま、選択肢があ

る形で残してほしい。

(会 長) 両論併記だと骨子としてまとまらないので、バランスを取ることが大事。少数意見を切り捨てないように。これで第3回市民懇話会の議事を終了する。

(3) 閉会

政策部長あいさつ

(事務局) さまざまな視点から貴重なご意見をいただき感謝申しあげる。以上で、第3回市民懇話会を終了する。